

# 令和5年度 自己評価(年度末評価)

広島城北中・高等学校

年度末評価	
評価	基準
A	目標を完全に達成した。
B	目標を概ね達成した。
C	目標をあまり達成できなかった。
D	目標を全く達成できなかった。

教育目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値			
1 すべての教育活動を通じて、高い志と行動力に裏打ちされた「城北スピリット」を育む。							
志を持ち高い目標に挑戦する勇気を持った生徒を育てる。	学習意欲を高く持つとともに、進路実現のための目標を設定して行動している。 将来への見通しを立てるとともに、進路実現のための行動ができています。	中学 42.8% 高校 49.4%	70%	62.5%	B	・進路 LHR、面談等を通じて進路意識を高めている。 ・学年の状況に応じた学習指導、学習意欲の涵養は、概ねできている。	総務部 生徒部 学年会
他者や社会に貢献する勇気を持った生徒を育てる。	校内外において自発的に貢献する行動をしている。	中学 54.9% 高校 66.0%	70%	43%	C	・とりわけ校外において自発的に社会貢献活動を行った生徒は一部にとどまっている。	
・多様な教育活動を通して生徒の自立に向けた取り組みを行う。 ・生徒一人一人が主体的に参加する学校行事を行う。 ・社会の一員として利他の心を持った人間性を育成する。	多様な課外活動への主体的な参加	—	70%	50%	B	・体育祭、文化祭の満足度は、90%前後ある。 ・自分自身はマナーを守っているという自覚を持った生徒が多い。	生徒部
	公共マナー・ルールを守った登下校	—	75%	39% (本校) 79% (自分)			
	体育祭・文化祭等の学校行事への主体的な参加	—	80%	94% (文化祭) 88% (体育祭)			

## 【評価結果の分析】

- ・定期試験期間中を中心に、放課後学習会を実施し、生徒のモチベーションを維持する取組を行った。
- ・主に成績上位層に対して、積極的に校外模試に挑戦させた。中位層に対しては冬休み中に補習を実施し、基礎学力の定着を図った。
- ・PTA とも連携しながら、文化祭/パンフレットの広告集めを積極的に行った。
- ・体育祭(6月)、文化祭(9月)とも、生徒の満足度は高い。
- ・生徒会執行部など一部の生徒は、能登半島地震への募金活動を自ら企画するなどの姿勢が見られた。
- ・自分自身のルール・マナー違反についての自覚が十分でないため、地域の方々に迷惑をかけることが少なくない。
- ・自分よりは他人のルール・マナー違反の方が目に付く傾向がみられる。

## 【今後の改善方策】

- ・登下校のマナーについて、生徒会執行部を中心とした生徒主体の啓発活動を行っていく。
- ・体育祭(6月)、文化祭(9月)については、より生徒主体となるような行事にしていく。
- ・とりわけ体育祭については、フロアに先生の姿が見えないくらいの生徒主体の運営を目指していく。
- ・授業内のみならず授業外においても生徒との対話を密にしていくことで、学力意欲向上につなげていく。

教育目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値			
2 世界の動向や日本の現状を多様な視点から捉え、持続可能な社会の実現に向けて意欲的に取り組む生徒を育成する。							
世界の動きに興味・関心を向けるとともに、積極的に異文化に触れ、コミュニケーションがはかれる生徒を育む。	海外短期研修の応募者数	中止	55人	48人	B	・韓国プログラムにはほとんど関心がなく、中止した。 ・受入プログラムに対する関心も期待したほどではなかった。	国際部
	受入プログラムのホストファミリー	中止	50家庭	37家庭			
	インターナショナルフレンドシップキャンプ IFC(中学)	中止	30人	26人	A	・希望者はいたが、IFCはインフルエンザの影響で中止した。 ・「広島インターナショナルフェスタ」、「ユース・サミット in 広島」に21名が参加した。 ・韓国語スピーチコンテストに1名入賞した。	
	スピーチコンテスト等の外部イベント	—	20人	22人			
	韓国語講座参加者数	19人	20人	29人			
英語検定の受験に向けて意欲を喚起する	高2英検2級以上取得率	16%	50%	15% + $\alpha$	B	・中学では英検に対する指導を行い、中2は目標を達成した。 ・高校については、特に対策を講じていない。	国際部 英語科
	中3英検3級以上合格率	74%	80%	結果待ち			
	中2英検4級以上合格率	82%	90%	90%			

#### 【評価結果の分析】

- ・韓国語講座には関心はあるが、韓国短期研修プログラムへの関心は低く、応募者が定員に満たないため、残念ながら中止とした。
- ・新型コロナウイルスによる制限が解除されて以来、初めてすべてのプログラムを実施することができた。
- ・3年間の空白があったため、当初、生徒たちの意識も低く、再開に当たって懸念もあったが、受入れプログラム(インドネシアから80名、オーストラリアから14名)の実施により、国際交流の意識が高まった。
- ・英国短期研修プログラムへの高校生の応募者数は21名、来年度のオーストラリア短期研修(中学2年)参加希望者数は21名に増加した(今年度は4名)。
- ・研修先の国の物価高騰や円安により、研修参加者や引率教員の負担が増加している。

#### 【今後の改善方策】

- ・実用英語検定受験の結果が出た段階で、各学年・受験級における合格率・取得率の分析を行っていく。
- ・韓国短期研修の案内の時期を工夫することで、参加希望者の増加を目指していく。
- ・高校短期研修プログラム参加者が、自身の経験を大学受験に活かしていけるようなプログラムの充実を図る。
- ・引き続き、受け入れプログラム等を活用し、生徒の国際交流や海外留学への関心を高めていく取組を推進する。
- ・研修先の国の物価高騰や円安による研修参加者や引率教員の負担増に対して、早急に対策を立て、海外研修を持続可能な取組としていく。

教育目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値			
3 生徒一人一人の強みを見極め、系統性と計画性を持たせた学習指導・進路指導を展開する。							
・系統立てた学びにより、学習意欲等が高まっている。 ・年間授業時数が確保できている。	生徒の授業満足度	84%	90%	85%	B	・授業満足度は、授業評価アンケートから算出した。 ・曜日による時間数の調整を行った。	教務部
	シラバス作成の進捗管理	90%	100%	90%			
	年間授業時数(1単位当たり)	35h	35h	35h			
生徒の進路意識を高め、旧帝大等の難関大、広島大、を第一志望に挙げて学習に取り組む生徒を育てる。	全統模試第3回(高1・11月)	旧帝大クラス	—	40人	39人	B	・全学年において、広島大クラスの目標人数は概ね達成しているが、旧帝大クラスについては、前年度をわずかに下回っている。
		広島大クラス	—	70人	132人		
	進研模試11月(高2・11月)	旧帝大クラス	34人	35人	31人		
		広島大クラス	53人	60人	78人		
	全統プレ共通テスト(高3・11月)	旧帝大クラス	24人	30人	20人		
		広島大クラス	47人	50人	49人		
模試目標偏差値を達成する	全統模試第3回(高1・11月)	偏差値70以上	0人	7人	1人	C	・1、2年生とも全目標達成できておらず、偏差値60以上の人数が前年度を下回っているため。
		偏差値60以上	11人	30人	6人		
	進研模試11月(高2・11月)	偏差値70以上	3人	20人	4人		
		偏差値60以上	29人	60人	22人		
旧帝大等の難関大10人、広島大15人、早慶上理20人、関関同立100人以上が合格する。	大学合格者数	旧帝大等の難関大	8人	10人	11人	A	・すべてにおいて、目標を達成することができた。 ・関関同立は、昨年度の1.5倍以上になった。
		広島大	7人	15人	16人		
		早慶上理	15人	20人	19人		
		関関同立	84人	100人	171人		

#### 【評価結果の分析】

- ・目標達成に向けた具体的な取組が十分でない。
- ・偏差値60及び70以上の人数を合計しても、30人に満たない。
- ・偏差値70以上の人数は、微増している。
- ・各学年とも、学力の二極化が顕在化してきた。

#### 【今後の改善方策】

- ・生徒データの整理を行い、生徒の成績・志望校等の共有を図る。
- ・各学年で、模試結果の分析をきめ細かく行い、関係教員で共有し、取組を進めていく。
- ・Classiの活用を通じて、主に学力中・下位層の学習状況を把握し、底上げを図る。
- ・高校において「学びみらいPASS」を活用して生徒の現状を客観的に把握し、生徒個々の可能性を探る取組を推進する。

教育目標								
達成目標	評価指標	前年度		本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値	実績値			
4 時代の変化に対応した教育内容の開発と校内の指導体制を構築する。								
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。	「授業改善シート」の提出		80%	100%	88.9%	B	・授業評価個人票をもとに「授業改善シート」を作成し、校長へ提出した。 ・次年度より実施となる医学科進学コースの高校教育課程を作成した。	教務部
新学習指導要領に対応した教育課程を実施する。								
城北の魅力を、機会をとらえて積極的に情報発信する。日常的な教育活動について、学校の魅力を積極的に校外に発信することにより、志願者数の確保に繋がる情宣活動を推進する。	志願者層への興味・関心の喚起	中学校入試 志願者数 (4教科 +2教科)	志願)614人 受験)586人 入学)173人	670人	1033人 (実数 618人)	C	・入試回数を増やしたため、志願者数が見かけ上増加した。 ・オープンスクールに参加した児童実数は増加した。 ・高校入試は JO:43人、ME:98人といずれも減少した。	入試 広報部
		イベント参加者数	227人 (児童数)	290人	363人			
		高校入試 志願者数 (JO+ME)	志願)159人 受験)158人 入学)83人	210人	141人			
		JO志願者数	57人	90人	43人			
医進コース・自主的探究活動のカリキュラム開発と広報活動を進める。		医進コース 入学者数	5人	20人	4人	C	・推薦入試:1名受験・1名合格・1名手続き済 ・4教科入試:24名受験・22名合格・3名手続き済み	医進 コース 担当

#### 【評価結果の分析】

- ・公立高校への出願志向が強く、私立の推薦入試の低迷は、私立高校共通の状況といえる。
- ・昨年度は、公立高入試改革の初年度ということで、私学の方へ受験生が流れる傾向があったが、それも落ちついた。
- ・今年度オープンスクールの中に体験活動を加えたことにより、参加数が増加した。
- ・中学受験において男子受験者数は減少している中、受験者実数が減少しなかった点は評価できる。
- ・オープンスクールの午後に医進コースのAL体験会を実施した。
- ・医進コースの受験者数は、4教科入試では増加したが、手続きをしたものは3名にとどまった。

#### 【今後の改善方策】

- ・中学入学者数が伸び悩んでいる中、他校と比べた本校の魅力の創出と強力な発信を行っていく。
- ・高校受験については、本校の認知度を高める取組を創出していくことで、私立他校への流れを阻止していく。
- ・医進コースの広報活動の場を県外にも拡大していく。
- ・SNS等を活用した発信を強化していく。

## 令和5年度 学校関係者評価シート(年度末評価)まとめ

令和6年3月11日  
広島城北中・高等学校

評価項目	評価	理由・意見
目標, 指標, 計画等の設定の適切さ	B B A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと生徒・保護者の声で測ってもよいものもあるのではないかな。</li> <li>・とてもよく考えられている。</li> <li>・高い目標に向けて取り組んでいる。</li> </ul>
目標の達成状況の評価の適切さ	B A B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共マナーを守って登下校をする生徒の割合を上げるための具体的な取り組みがあるとよい。</li> <li>・例年より明確、正確に評価されている。</li> <li>・数値で表すのはわかりやすい。</li> </ul>
目標達成に向けた取組の適切さ	B B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英検2級、3級の合格率を上げるような取り組みをさらにしてみてもどうか。</li> <li>・当日はもう少し、より実数の資料に変えてもらいたい。</li> <li>・具体的な取り組みを実績に応じてさらに進めていき、学校としてのアピールを外部に積極的に行ってもらいたい。</li> </ul>
評価結果の分析の適切さ	B A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の時間と質をどう高めるか、classi をより工夫して活用する必要があるのではないかな。</li> <li>・真面目に評価されている。</li> <li>・適切に評価されている。</li> </ul>
今後の改善方策の適切さ	B B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良い学校なので、SNS や HP での発信を増やして周知してもらいたい。</li> <li>・英検や模試の目標偏差値を実数に近くされるとよい。</li> <li>・適切である。</li> </ul>
総合評価	B B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ明けでこれまで通り文化祭や体育祭が開催できていけば、生徒の満足度も上がっていくように思う。</li> <li>・入学者数や進路目標の数値をより高くしてもらいたい。</li> <li>・城北の「強み」をもっと外に向けてアピールしてもらいたい。</li> </ul>

A:とても適切である／B:概ね適切である／C:あまり適切でない／D:まったく適切でない／N:判定できない